

線形代数 (第16回) の解答

問題 16-1 の解答

(1) 次のように, W_1 は定理 16-3 の (i), (ii), (iii) を満たすので, $M_2(\mathbb{R})$ の部分空間である.

$$(i) \begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{bmatrix} \in W_1 \quad (\because (1,1) \text{ 成分と } (2,2) \text{ 成分はどちらも } 0)$$

(ii) $\begin{bmatrix} a_1 & b_1 \\ c_1 & d_1 \end{bmatrix} \in W_1, \begin{bmatrix} a_2 & b_2 \\ c_2 & d_2 \end{bmatrix} \in W_1$ とする. このとき, $a_1 = d_1 = 0, a_2 = d_2 = 0$ が成り立っているから, $a_1 + a_2 = d_1 + d_2 = 0$. よって,

$$\begin{bmatrix} a_1 & b_1 \\ c_1 & d_1 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} a_2 & b_2 \\ c_2 & d_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a_1 + a_2 & b_1 + b_2 \\ c_1 + c_2 & d_1 + d_2 \end{bmatrix} \in W_1.$$

(iii) $\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \in W_1, r \in \mathbb{R}$ とする. このとき $a = d = 0$ が成り立っているから $ra = rd = 0$.

$$\text{よって, } r \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} ra & rb \\ rc & rd \end{bmatrix} \in W_1.$$

(2) W_2 は $M_2(\mathbb{R})$ の部分空間ではない. なぜならば,

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \in W_2 \quad (\because 1 + 1 = 2)$$

だが,

$$2 \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 & 0 \\ 0 & 2 \end{bmatrix} \notin W_2 \quad (\because 2 + 2 = 4 \neq 2)$$

となり, 定理 16-3 の (iii) を満たさないからである.

問題 16-2 の解答

W_3 が定理 16-3 の (i), (ii), (iii) を満たすことを確認すればよい.

(i) W_1 と W_2 は V の部分空間なので, $\mathbb{O} \in W_1$ かつ $\mathbb{O} \in W_2$. これと \mathbb{O} の定義より

$$\mathbb{O} = \mathbb{O} + \mathbb{O} \in W_3$$

(ii) $x, y \in W_3$ とする. このとき, $u_1, v_1 \in W_1$ と $u_2, v_2 \in W_2$ を用いて

$$x = u_1 + u_2, \quad y = v_1 + v_2$$

と表せる. $u_1, v_1 \in W_1$ であり, W_1 は V の部分空間であるから, $u_1 + v_1 \in W_1$. 同様に, $u_2, v_2 \in W_2$ であり, W_2 は V の部分空間であるから, $u_2 + v_2 \in W_2$. 従って

$$x + y = (u_1 + v_1) + (u_2 + v_2) \in W_3$$

(iii) $x \in W_3, c \in \mathbb{R}$ とする. このとき, $u \in W_1$ と $v \in W_2$ を用いて $x = u + v$ と表せる. W_1, W_2 は部分空間であるから $cu \in W_1, cv \in W_2$. よって,

$$x = c(u + v) = cu + cv \in W_3$$

問題 16-3 の解答

対偶を証明する. つまり,

$$W_1 \not\subset W_2 \text{ かつ } W_2 \not\subset W_1 \implies W_1 \cup W_2 \text{ は } V \text{ の部分空間ではない}$$

を示す. $W_1 \not\subset W_2$ かつ $W_2 \not\subset W_1$ とすると,

$$u \in W_1 \text{ かつ } u \notin W_2 \text{ となる要素 } u \quad \dots \textcircled{1}$$

$$v \in W_2 \text{ かつ } v \notin W_1 \text{ となる要素 } v \quad \dots \textcircled{2}$$

が存在する. このとき, $u \in W_1 \cup W_2$ かつ $v \in W_1 \cup W_2$ であるが,

$$u + v \notin W_1 \cup W_2$$

なぜなら, $u + v \in W_1$ ならば, $u \in W_1$ より, $v = (u + v) - u \in W_1$ となって②に矛盾し, $u + v \in W_2$ ならば, $v \in W_2$ より $u = (u + v) - v \in W_2$ となって①に矛盾するからである. 以上により, $W_1 \cup W_2$ は定理 16-3 の (ii) を満たさないので, V の部分空間ではない.